（一）號二十百四第 （日曜木） 日五廿月五年三十四治明

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年

本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金參拾錢▲三ヶ月前金貳圓▲六ヶ月前金貳圓▲前金一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雑報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　杉久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

内外瑣聞　京城管見録　一記者

▲衛生　京城に於ける衛生に向つての日本人の努力は吾人是れを多とするに躊躇しない、殊に我皇太子殿下御渡韓遊ばされ衛生費として御下賜金を拜受したる際の當局者の精勵と、吾居留民の深き注意とは稍んど到れり盡せりといふべきである、随て其の多方面に及ぼせる好影響は實に當政者にも想像以上であつたらしく思はれる、今更吹聴する迄も無いが本の著しき效果の程を擧げて見やう。

京城に於ける衛生事情中最も困難を感ぜしむるは勢韓人に對する此の思想…… 韓人は如何なる不潔物の傍にも見ゆる……衛生上諸種の施設は漸次韓人を誘掖して衛生の何ものなるを甚だ朧氣ながらも何ものたるを解せしむるに至つた、之れを直接の效果として間接には漢城府政に頭緒を得しめた、同時に社會改良の端緒を開くを得た、日韓人の利益が一致し得べきものなるを日韓人に教ゆた。

北韓視察談（上）　（一記者）

北韓に出張し去二十日歸任したる軍司令部副官竹本歩兵少佐と軍司令部に訪ひ其視察談を聽くを得たり以て左に掲ぐ

予は昨年十一月の交北韓に出張したることあり、今回再び同地方を視察するに總じて發展の跡を見せり、先づ

▲淸津　に就て語らんに、同地は今春に入りて戸數六七十の增加を爲せる由なるが去年十二月は間島問題の落着せるあり、別に吉會鐵道の問題は頗ぶる人氣を引立てたるが如し、然るに同地は背面丘阜を以て限られ、之れを躁ゐざれば市街の膨張の餘地無き爲め海岸を埋立てゝ市街地に充つるの計畫を立て今や工事最中なりし、又同港は北韓に於ける人馬及貨物の主なる揚陸場なるも　良港とといふを得ず、少しく風波あれば揚陸も艀舟の如くならざるを以て之れが計劃あり、……

三南の製紙業（下）

▲全州市場　全州は全羅北道中央に位し以前は道路險惡にして貨物運搬の如き僅かに牛馬背載は艱により爲せしが今春道路の改修竣工を告げてより交通の便漸く盛んとなり今後の繁榮期すべきなり然して同地は紙及扇子團扇等を紙細工品産として韓國中有數の位を占む市場は西門南門外各一箇所より相當の賣買あれど産紙の大部分は當市場に集中して更に京城其他各地方に輸出せられ一個年間に於ける總聚散額は實に約八千塊の多きに達せり

▲製紙傳習所　隆熙元年日韓人の合同組織にて創立されしが現今は日人去り韓人の手に經營され昨年度より農商工部の補助金を得益々隆盛に赴けり全州西門外にありて敷地二百坪日韓兩様の製紙法を傳習し現在生徒二十三名あり日を追ふて進歩しつゝあり

▲紙の種類と用途　韓國産紙は大別して白紙壯紙角の三種に類別す即ち白紙とは紙質薄く白き紙の總稱にして壯紙は白紙の稍厚きもの角紙は紙質の厚く强靭なるものゝ稱にして日本の厚紙に類似せり目下京城に散在せる紙の種類を擧ぐれば左の如し

▲窓戸紙　は見韓紙別淸紙三貼紙とも稱し主に窓戸障子を貼るに用ふ

▲油衫紙　紙質は窓戸紙に比し稍厚く其大小は殆んど四倍なり主に慶南地方より産出し油衫（雨具）を製するを以て此名あり普通品を壽油紙紙質薄きを等品を中爸紙と云ふ

▲頁物紙　一名を胡尺紙と稱し白紙中稍小板のものなり古昔清國への貢物品を包むに用ひたるを以て此名あり

▲四古紙　白氏中最も小板の者にして學生の習字用並に新聞用とす一名は恒用紙とも云ふ

▲外壯紙　は主に全羅道より産出す紙質厚く强靭にして紙面に光澤あり帳簿用紙とし用ひらる

▲苔壯紙　全羅道より産し海苔を流入れ一種の紋様有り紙質强く古來韓國に於ける手形用紙に用ひたり

▲映窓紙　窓戸紙の一種にて厚く大なり

▲雁扇紙　全羅道錦山郡より産出し扇子團扇を製するに用ふ

▲笠帽紙　は雨紙にして京城北門外より産出す俗にカルモと稱する韓人用雨笠を製するに用ふ

▲壯紙　壯紙の一種にて色紙なり其種類多く書籍封筒製造用に供す

▲大角紙　京城北門外より産出する還紙なり紙質厚く大なり

▲小別紙　大角紙の稍薄きものにして書冊又は辭令證書用紙とす

▲資文紙　紙質非常に厚く大角紙の殆ど二倍なり此に塗漆し學徒習字用となす日本の紙石版の類なり

其他完山紙山内紙雨鳳紙加平紙恵中壯紙等あり白紙壯紙の一種なり其産地名を冠す日本に於ける美濃、駿河半紙、日向半紙と云ふ如し（完）

●某牧師の談片

或る牧師の語る所に依れば今也韓國に於ける耶蘇教布教の成績は實に好良なりしが近時或る誘惑者の言に迷はされてか頓に其の成績を落したるのみならず布教の眞意の博愛普導にあるを知らず却つて恐慌排斥する者さへあるに至れり恐も亦甚だしと云ふべし面して其の誘惑者たるものは判明せるも今明かに云ふを得ず然れども彼等誘惑者にして飽くまで余等の眞意を知らず徒らに愚弄せんか、余等も亦精神あり手段あり斷乎たる手段方法を以て彼等に對抗し以て我が眞意のある所を知らしめずんば止まず云々

地方通信

▲平壤通信

▲海軍煉炭所と居留地　平壤礦業所に於ては本年より七十五萬圓の予算にて海軍煉炭所を設置する旨屢々報導せしが其の設置す可き位置に就ては當居留地に於ても多大なる希望を有し居りて是非共居留地若くは其附近に設置を乞ひ居留地　繁榮を援けられたしとの請願をなし居留民は挙つて之れが期成運動を試み居たるものなるが之れに對し礦業所にては事情の許す限り可成居留地の請願を容るゝ意見にて爾來其の利害得失に就て精密なる調査を遂げたる結果何分にも煉炭の原料たる無煙炭は大同江を隔てゝ約二里の遠隔地より産出する事とて煉炭製造の諸便宜並に其の郷費上到底居留地若しくは其の附近に設置し難き事情あるより遂に居留民の希望は畫餅に歸し今既に寺洞に……の炭山麓にして銅硯山と稱する場所に設置する事と決したる由にて居留地に……

▲蜂屋と大成學校　……は全然の如く大に…… 出現して……に就しては當地韓人間に種々なる邪推及危惧を抱き居りしが當地の耶蘇學校として有名なる大成學校にては去る十九日墜屋と地球と衝突するの當日なるを以て如何なる天變地災の生ずるやも計られずとして戰々兢々たりしが遂に前日より休學し其の……の生徒等は丸々其の郷里に歸したるが未だ一新智識を啓發する任にある學校にして迷信にかゝる斷の次第にて彼等の蒙昧嘆息の外なし

日本銘刀傳

第百二十席　邑井一講演

津田近江之守（廿四）

殿様は何も御存知ないから翌日岡島を御招ぎになりまして　殿「昨日連れ參つたる津田近江守助直、最早十五日月見の宴も近付きしに依り其節家中の者共へも紹介してやりたいから例の刀を携へて是非登城するやうにせよ」との御諚、岡島彌惣右衛門心中大に悦び早速お受けして退きまして我家へ歸り助直に向ひ、是れ〱云々であるから是非八月十五日迄滯在して呉れるやうにと申しますと助直も大層悦びまして、八月十五日と云へば忘れもせぬ我が主人が大野の爲めに赤恥を與へられたる當日、今度は我れ主人に代つて大野に赤恥を與へて與れやうと忠義一徹の助直八月十五日の來るのを樂しみにして居る、スルと殿様は能く〱助直がた氣に入つたと見ゑ、或日岡島に助直を同道登城せよと云ふ命令、早速登城すると御酒を下されて　殿「さて段々其方の話を聞き予にれいても殆ど感心いたすことである、さて改めて其の方に一口所望をいたすことを當八月まで此の地に滯仕いたし仕上げたる上、同じ十五日無禮講の節助直予の許へ其刀を持參をいたし呉れることは出來まいか」大いに彼れも心中悦び、よつてれ請けをいたしまして御前のれ目通りを下りましたが、されば此の赤穗に暫時の御逗留といふことに相成りましたのでございます、そのうち大坂の養父助廣の許へ手紙を出しまして、是非殿様の御註文について、此の地にれいて一口鍛へたいといふことを申し送りましたそこで早速地金その他諸道具を持參いたして弟子が三人ほど出掛けて參りましたことでございますから、そこで先づ仕事場を設けまして、丹精を擢んで、漸うのことに御注文の品を一口鍛へ上げに及ぶことに相成つたのでございます、さて是れが出來上りますと、立派な白鞘物といたして箱に納め、素より八月の上旬には是は調うてございましたが、併し出來上つたることをば未だ申さず十五日の來るを相待つて居りました、殿は當年は御國表にれいで遊ばすのでございますから、素より例年の通り無禮講でございまして、その當日に相成りますと御家老老臣總て目見ね以上の者は殘らず酒宴を催すといふことになりましたが、この上席の所には國家老小野九郎兵衛、城代大石内藏之助その他老臣近藤小山玉虫これらを首めといたして國詰めの銘々皆々席定まりますと、まづ酒宴といふことに相成りました、そのうちに殿は御機嫌麗はしくたいで遊ばしたが、岡島を呼べといふ御沙汰に相成りました、彌惣右衛門進の末坐にありまして一杯御酒を頂いて居りましたが、れ召しによつてれ目通りへ罷り出でまするとれ申し付け願きしが何うじや助直の一口出來上つたか　彌「御意にございます最早出來仕りましてございます、それがために本日は手前宅に控へさせ置きまして……でございます　殿「ウム、左様か、幸ひの折であるから唯今助直を是れへ連れ參れ、予の命せ　刀が出來上りしとならば早速見せて貰ふであらう、定めし好く出來たことを存ずる、早速之れへ連れ參れ　彌「然し斯様な御酒宴の席上へ彼風景な刀鍛冶などを召連れ參りまするは如何かと存ぜられまする　殿「イヤ苦しうない、無禮講であるに依つて何人が參つたとて構まふものでない、予に於ても早く見たいから連れ參れ予よりも盃を取らする　彌「ハツ、誠にハヤ難有き仕合せに存に奉ります、然らば御免蒙りまして此席へ連れ參ります　るでございます　殿「予が許すに依つて早く連れ參れ」一同何者であらうと耳を欹だてゝ居る、大野九郎兵衛進出でまして　九「卸前に伺上げますが助直と仰せられまするのは何者でございます　殿「ウム、まだ皆の者に申さなんだが、今大坂表に於て將予の名人と言はるゝ津田近江守助直と申す者が岡島の家に滯在致し居るに依つて、予も一振鍛つことを命じたが最早出來致した由なれば此所へ持つて參るやう命じたのである、又た其の助直なるものを一同へ紹介せやうと思つてな」



東京電報

▲獨逸皇族の來朝 獨逸ブラウンシュアイク國攝政フォンメクレンブルグ親王は獨逸軍艦ボルク號にて七月五日上海に着し[illegible]より御來朝に赴き西比利亞を經て歸國の豫定なりと（廿三日）

▲陸軍將官異動 第四師團長土屋中將は遠からず現役停年に達するを以て之と同時に小泉第一守備隊司令官及仙波[illegible]は中將に昇進し其の結果三師團長の更迭行はるべし（同上）

▲彗星通過の言明 昨夜電報はハレー彗星が太陽面を通過せる事を[illegible]東京天文臺員は彗星が廿日太陽面を通過したる事實なく從て運行狀態等の事も無しと言明せり（同上）

▲萬國監獄會議開催 第八回萬國監獄會議は來る二日より[illegible]に開會の旨本邦に通知あり[illegible]氏を派遣さるゝ由（同上）

▲萬國海法航海會議 本年九月白耳義ブラッセル府に開催せらるゝ萬國海法及海法會議には遞信省管船局長[illegible]氏派遣さるゝ事に（同上）

▲資業納税と選擧權 資業納税者に對し[illegible]選擧權を附與する[illegible]改正案を提出し[illegible]附與する事に改正すべし（同上）

▲教科書と政友會 本年度に於ける小學校國定教科書不足の原因に關しては[illegible]政友會の教科書調査委員會に於て[illegible]其の結果を發表したる由にて之が爲め文部省當局者は本問題に關する世間の攻擊を受け弱り居る由（同上）

▲寺內陸相の會合 廿三日午前寺內陸相は[illegible]小松、兒玉三氏は[illegible]寺內相邸に[illegible]（廿四日）

組織 ▲墺國皇族の御着 [illegible]

不敬事件と韓廷（奏任官以上の謹愼）

韓廷にては去る[illegible]日奏任官以上の宮[illegible]仁政殿に於て御陪食を[illegible]決定し一切の準備成れるも[illegible]宮同次官等勤務上嚴に關[illegible]の爲め進退伺を提出し謹[illegible]愈々御陪食の事は中止[illegible]て相當の形式と手段とを以て之を出願すべき旨を懇諭しつゝありと云ふ

獨大使の招待會

二十四日午後八時統監邸に於て東京駐劄獨逸大使ムンム男招待晩餐會を催ふ客人員左の如し
[illegible]ムンム、大久保軍[illegible]內務大臣、高度支部大臣、松永師團長、倉[illegible]大屋鐵道管理局長、國分參與官、石井少將、俵參與官、菊地商工局長、ドクトルクリュウグル、市原韓銀總裁、隨員海軍[illegible]三浦理事官、岡本中佐、[illegible]メヒレンブルヒ、本[illegible]リヤン、十時大尉、池[illegible]岩井少佐、藤岡通譯官、[illegible]通譯官、入江書記官

南韓と北韓の教育

[illegible]觀察して歸來せる某[illegible]を聞くに南韓は概して[illegible]致せる學制完備しれり[illegible]人徒弟にして從來耶蘇[illegible]もの頗る公立學校に移[illegible]の重なる原因は耶蘇教[illegible]の建築等極めて不完全[illegible]死滑りにて宏壯なるが[illegible]然混淆にて机椅子の設[illegible]アンペラを布いて徒弟[illegible]せしめ理科の如きも實[illegible]參考品の設備なく單に[illegible]するのみにて一般の教[illegible]方なるに反し公立學校[illegible]備に間然するところな[illegible]職に便利なるより前述[illegible]すに至りたるなるべく[illegible]校は目下八十二校を算[illegible]教師を招聘し教育制度[illegible]り全體に南韓に比すれ[illegible]秩序なる私立學校多く[illegible]八十二校を算する程な[illegible]の記事充分ならず云々

學相と地方の儒生

[illegible]以て南韓各地巡視中の[illegible]は去る廿三日淸州に一[illegible]日は多分安城若くは溫[illegible]期は來る二十七日頃な[illegible]各所の儒生は學相を[illegible]し或は建白書を上る者[illegible]關する意見を呪々諄々[illegible]來の學部の方針を難ず[illegible]立學校の維持近來に至[illegible]ざより寄附金に關する[illegible]例を頒出づるものあり[illegible]耳を假す能はざるを以

●警備船と沿岸施療

木浦警備所に於ては管內島嶼の衛生狀態視察及施療の爲め所屬警備船に警察醫を乘組ましめ智島郡、荷衣島及同八口浦方面に出航せしめたるが一般島民は未だ日本人醫師の診斷を受けたることなきより多少危懼する處ありたれば通譯に其の趣意を諭らしめ飮井水を檢查して不良水の飮用を禁めたりと而して同地方の一般病とも見るべきものは花柳病にして是れ清國漁船の時々入津し韓婦人に對し喰はすに金品を以てするより虛榮に憧がれて有夫者すら春賣を爲すに至り斯くて異人種の病毒を傳染せしむるに因ると

●學政方針と俵次官

一般學政上の大方針に就ては伊藤統監時代の既定方針に基き現に施行中なるが其後數百の私立學校又は耶蘇學校續出し一時は其勢力侮るべからざるものありて之が統御に苦心せしも漸く新政の眞意了解せらるゝと共に近來に在つては官私の接近著しく好現象を示めし此趨勢を利用し之が指導宜しきを得れば前途大に觀望すべきものあり此際學部次官は各大臣に對し學政に關する方針を說示し置き各自誤解なき樣啓蒙的性質を發すべく其準備中なり而して次回の大臣會議に於て之を演說すべしと云ふ

●江原道農產物枯死

本月初旬より暑氣日增に募り晴天のみ打續きたるを以て江原道一帶の農產物に大影響を被むり概ね枯死するの狀態を呈し麥の如きも長きは二尺短きは一尺內外に達すれど根元は孰れも黃色を帶び發育不良の爲め農民一同は非常に憂慮しれりと云ふ

●全南の密漁船取締

全羅南道牛耳島近海に於ける盛漁期を見込み多數の清國密漁船入込みたりとの風說盛んなるより木浦警備所に於ては去る二十日山崎警部引率の下に第二第三の警備船を急派し目下嚴戒中也と

●郡主事の秘苑拜觀

廿四日內部次官代理松井警務局長、澤田地方局長、平渡府部課長は新任郡主事に對し一場の訓示をなし廿五日は秘苑を拜觀せしめ尙事務上の打合せを終りたる後順次各地へ赴任せしむる由

●慶北欠員郡守決定

慶尙北道に於て目下欠員中の郡守は五名あるが其內三四名は二十三日の內部に開きし地方官資格審查委員會に於て決定したれば近々發表さるべしと

●松永師團長等招待

在京熊本縣人有志は同縣出身の故を以て松永第二師團長及び第二師團附藤田軍醫正を廿六日午後六時より花月樓に招待し歡迎の宴を張る筈なりと云ふ

●參與官會議の例會

廿四日午後一時定例參與官會議を開き出席者は倉富、俵、松井、池田、國分の各參與官鈴木、菊地の兩局長なりし

●觀察道內務部分課

內部は訓令第六十三號を以て觀察道內務部事務分掌規程を定め文書、庶務、土木、勸業、學務、會計の六課を置けり

經濟小言

▲韓國銀行の營業方針に就ては記者は疑問を疑問として攻擊したることもありき、度支部及び韓銀理事者が記者の立言に對し如何なる感想を有したるかは記者の與り知らざる所也き

▲頃は最近の支店長會議に於て市原總裁が韓銀の本分に就て詳細に說明し亦鈴木次官代理及藤原監理官が政府の韓銀に對し期待する所を忌憚なく述べて同行營業方針の宣明を計りたるは最も事宜を得たるものと云ふべし

▲云ふ迄もなく韓銀は中央銀行なり、其普通銀行の營業を兼ぬるは元々止を得ざるに出づ、果して而らば韓銀にとつて他の普通銀行との競爭の禁物なるは火を見るよりも瞭かなり。

▲今や度支部も總裁以下も茲に氣附きたる者の如し、之れ半島財界の幸福也、只恐る言ふは易く行ふは難し、記者は市原總裁の今後の實行を見て宣言の空しからざるを知んと欲す。

▲釜山に瓦斯、電氣營業の目的を以て三百萬圓の會社起れりと云ふ、之れ同港の爲に賀すべきのことなり、前きに日韓瓦斯電氣會社が釜山の特權を收めて事業の擴張を策せんとせしは身の程を知らざるものにして釜山の事業を釜山の人士が經營するに至りたるは至極當然の事なり。

▲瓦斯や電氣や乃至輕便鐵道や同港繁榮の爲に助けとならざるに非ず、只惜しむ之等の施設如何に完備するも釜山の生命たる貿易の增大に對し殆んど沒交涉たるを免れざるを。

▲記者は釜山の繁榮策を有す他日本紙に於て開陳すべし。

●雜誌新半島の發刊

雜誌富の朝鮮は今回杉市郞兵衞、岩田正國兩氏にて經營する事となり新半島と改題して本月廿五日より發刊すると

●水原林業所の廢止

農商工部は水原林業事務所を廢止すと

●澤田局長の招宴

澤田地方局長は二十四日夜新任郡主事一同を京城ホテルに招待して晚餐會を催ふしたり

●石井主計の出發

韓國憲兵隊本部附より大坂被服本廠へ轉任せし石井一等主計は廿四日午前發列車にて出發す

●天神林大尉出張

軍司令部附天神林大尉は往復一週間の豫定を以て馬山方面を巡視する由にて廿四日午前出張

●戶叶民政氏東上

朝鮮日報社長戶叶薰雄氏は愈々廿五日午前九時南大門發列車にて東上往復約一ケ月の豫定也

●辭令

左の通り辭令ありたり

任大邱憲兵分隊長
咸興憲兵分隊長 陸軍憲兵少佐 石井權藏
大邱憲兵分隊長 陸軍憲兵大尉 小澤壽
任咸興憲兵分隊長
韓國憲兵隊本部附陸軍憲兵中尉 黑石憲治
編輯事務監督を命ず
韓國憲兵本部編輯部囑託 木下賢良
依囑託を解く（以上二十三日）

言論抑壓と記者團

近頃當局者が新聞紙規則を濫用して新聞通信を抑壓し言論の自由を蹂躪する愈々甚しきを慨し在京城記者團は廿三日不知火旅館に會合左の決議を爲せり

決議

當局官憲が在京城新聞及通信に對して常に職權を濫用し言論を抑壓するは不當と認む仍て其反省を促がし同時に新聞紙規則の改正を期す

明治四十三年五月二十三日

在京城新聞記者團

長官理事官訪問（決議に關して）

京城新聞記者團同人は廿三日午前十時三浦理事官を訪ひ別項決議文の寫を同理事官に呈出し新聞記事に關する統一及無用の干涉に就て種々意見を陳述し午後一時同人打揃ふて石塚長官を統監府に訪問し同樣決議文の寫を呈出し且つ石塚長官三浦理事官及同人とは同府會議室に於て會談を遂げ結局石塚長官より左の意味の回答を得たり

新聞記事の**統一**に就ては諸君の申出を至當と認むるを以て今後勉つて勵行すべし

新聞に揭載すべき論議記事の範圍は可成豫めこれを定め得ざるも今後は可成**寬大**にすべし

新聞紙規則改正の件は諸君の希望として聞置くべし

●駐劄軍將校の移動

駐劄軍將校及同相當官移動左の如し

▲駐韓軍兵器支廠々員砲兵少佐中村善雄氏は羅南出張所勤務を命ぜられ工兵大尉伊藤武順氏其後を襲ひ憲兵隊附一等主計石井斧三氏は第四師團司令部附二等主計木下秀男氏は高田に轉勤 陸軍倉庫附兼第六師團經理部々員二等主計正篠元勝造氏は兼職を解かれ第二師團經理部々員兼補 步兵第三十二聯隊附一等主計氏家直次氏は陸軍倉庫附に兼補 倉庫附一等獸醫岡月皎氏は軍司令部獸醫部々員に轉補せらる

●清貨通用狡猾手段

全羅北道の地は一般に葉錢の流通盛んにして葉錢を所持せざれば市場等に於て意の如く買物の出來ざる地方すら尠からず然るに昨年以來貨幣制度の改正せらるゝに伴ひ追々葉錢を引上げられ爲めに小取引を爲す小商人等は只管不自由を感じつゝありたるが如し當局も此の點に注意を拂ひ近頃市場の通貨狀況を見るに韓國從來の葉錢の代りとして清國葉錢を流通するものあり殊に秦仁邑內の市場等に此の類の葉錢最も多とするを見る一說によれば韓國從來の葉錢は一圓紙幣に對し五百文が普通價なるも時としては四百八十文內外に下らざれば交換せざる事あるに反し清國葉錢は紙幣一圓に對し一千文の交換を爲し結局韓國葉錢の倍數に交換せられ之れを同樣に使用し得るを以て狡猾なる支那人は盛んに該葉錢を密輸入する者尠からず當局も之れを嚴重に取締り目下各市場其の他各小商人等の使用し居る葉錢に注意中なりと

●京龍合併問題進行

京龍合併問題に關しては京城民團側の大勢は合併を是認することに決したること既報の如くなるが龍山側に於ては今回は卒先して合併問題を提供したる程なれば異議ある筈なく此に於て三浦理事官は二十五日午後八時より兩民團民長及び兩民團議員を京城ホテルに招きて聯合協議會を開き其の結果に依りて愈々正式に合併を實行すべしと云ふ

●水道竣工式と鐵道

平壤の水道竣工式は同地綾羅島水源に於て來る二十八日舉行する筈にて夫々案內狀を發したるが案內狀を受けたる者は二十七日午前九時十分南大門發列車に搭乘すれば二等列車は二割五分割引すると云ふ但し豫め內部土木局へ申込むべしとなり

●渡日韓人數の增加

日韓の關係密接するに從ひ自已の生地以外に一步も踏出すことを知らざりし韓人も近來漸く日本に渡航する風を生じ四月中に於ける渡日韓人は二百二十三人ありし由にて之れを昨年の四月に比すれば五十六人增加したりと云ふ

●海軍省副官の禮狀

第六號潛水艇遭難事件の義捐金は此程統監府同所屬官署及び韓國各部に於ける分七百九圓六十五錢を海軍省へ送附したるに井出海軍省副官より右に對して懇篤なる禮狀を寄せられたり

●各特派員と記者團

內地五大新聞の特派員諸氏は別項京城記者團の決議を至當なる處置となし之に對し相當應援すべく協議を凝らせり

●京城會議所役員會

京城商業會議所にては二十五日午後六時より役員會例會を開き取引所設置問題を附議する筈なるが廿六七日頃會議所の臨時總會を開きて取引所問題を正式に審議すべしと云ふ

●龍山の合併委員會

二十三日京龍合併問題に對する龍山委員兼古禮藏、大村百藏外三氏は龍山民團役所に集會し協議を遂げたり

●高等法院長の歸任

新義州平壤鎭南浦方面の控訴院以下各裁判所事務視察の爲め出張中なりし渡邊高等法院長は二十五日夜歸任する筈

●檢查官一行仁川行

曩きに來韓中なりし會計檢查官中村條永、尾崎濟、田邊鐵太郎氏の一行は一昨二十三日仁川へ向け出發したり

●埋築會社補給請願

龍山埋築會社は昨二十三日龍山民團に宛て埋築費の補給方を請願せりと

●武田鑛業所長入京

平壤鑛業所長海軍少將武田秀雄氏二十三日釜山より入京天眞樓へ投宿せり

●池田經理局長歸任

通信管理局長池田十三郎氏は二十三日午後八時三十分南大門驛着歸任せり

●若林警視總監出發

若林警視總監は既報の如く昨二十四日午前九時出發東上の途に就きたり

公人私人

△內田鼎（海軍技師）廿三日入京天眞樓
△西和田久學（農商務省技師）同上退京
△麻生蓬（韓銀群山出張所主任）同上
△泉末吉（同木浦支店支配人）同上
△仙波正太郎（同安東縣支店支配人）同
△武川盛次（同大邱支店長）同上

寄書

京龍合併問題（上）

田村義次郎

予は京城龍山兩民團合併問題に關し合併贊成論者の論據を聞知するを得ざるを遺憾とせしが去る廿一日該問題に關する協議會を傍聽し合併贊成論者の意見を窺ふを得たり試みに其說の概要を摘示せば(一)京城龍山は地形上別個の自治体を並立すべきものにあらず(二)別個の民團にて兩地を各別に支配するときは行政上の統一を缺く(三)龍山は漢江に臨み舟運の便あり又鐵道の交叉點たり即ち京城の咽喉なり是を他の民團の下に置くときは他人をして自由に己の咽喉を扼塞せしむるものなり(四)龍山市街は今後速かに繁昌すべし(五)合併後と雖ども當分龍山に巨資を投じて其市街を改良するを要せず(六)合併後財政上に生ずべき不足額は反對論者の唱道するが如き巨額に上ることなし又更に山口太兵衛氏の新聞紙上に公にせられたる意見を參酌するに京城民團の財政は余裕あり龍山と合併したる爲め生ずべき缺額を負擔するも京城居留民に格別の苦痛を及ぼす事なしと云ふに在るが如し

予は上記各項に對し意見を述ぶるに先ち協議會傍聽の際に於る感想の一班を陳べ然る後に細論に及ぼさんとす合併贊成論者の唱道する所を聞くに曰く龍山は地形上京城に合併すべきものなり曰く龍山は今後必ず繁榮に赴くべし曰く京龍合併の後と雖も巨資を投じて龍山市街の經營を爲すに及ばざるべしと聞ふが如き大概獨斷的前提を作爲し是に依りて種々の論據を立て合併問題の贊否を決せんとするが如き情勢の議場に瀰漫せるを發見し又幾許の負擔が合併に依り新に京城居留民の頭上に落下し來るや其增加せる經費は如何なる方法に依り之を支辨するを得るや合併後龍山市街の經營は如何に之を處理すべきや等の問題は今日豫じめ之を推究し置くを要するは素より居留民の代表者たる議員諸君の當然の任務なるに依り必ず此等の民團財政問題に對し詳細なる調査の結果を聞知するを得べしと期待したるに予は遂に議員諸君の高論靜說を聞くを得ざりしを遺憾とす

▲治外法權▼

故伊藤公の統監時代に在つては新聞紙に論議報道の自由が少しは有つたものだ、思ふに伊藤公とて新聞紙の記事を意に介しない譯ではない、只だ自家の政策其他爲す所が凡べて公明正大であつた爲に新聞紙に向つて格段の檢束を加ふるの必要を見なかつたのだ▲曾禰子統監となるに及んで統監府の新聞紙に對する態度が激變した、敢て政策とは云はず、僅か個人としての統監の非行を許かれた位で特に統監府令を出して新聞紙規則中の届出式を認可式に變じ、故伊藤公が制定した新聞紙規則を根本から破壞して仕舞つた▲閑話休題、此頃になつて統監府の新聞紙に對する干涉が益々ひどくなつた例を擧ぐれば曾禰統監の病狀、合邦問題、官吏の非行、暗動不敬事件秘密函等內地の新聞紙へ揭げて差閊ない記事を當地の新聞紙には揭載を禁じた▲加之ツイ先立ては統監の病狀を報道した本紙と英皇崩御の通信を出した日本電通とに發行の停止をやつた、事茲に及んでは當局の措置に對して最早ダマッテ居られぬ、故に無餘儀も正當防衛の爲め別項の如き決議をやつて對抗運動をすることにしたのだ▲日韓瓦斯電氣會社は開業未だ日淺きに新聞記者に酒食を饗すること已に三回近日亦々記者一同を招宴するソウだ、一體同會社は何の餘金があり亦た何の理由があつてソンナに酒食政畧をやるのか

名妓洗髪の丶妻(五)

▽西と東へ本意ない別れ▽貞奴と川上を張り合ふ

フイと飛び出して見ると兩人が手に手を執つて水の中にゐるので、身柱からゾツとして總身に冷い水を浴せられたやうに感じて、物をも言はずに私は村の手をグイく引いて濱邊へ上つて行きました、餘り私が宿へ歸らないものですから、文さんやれぎんが心配して、濱邊を探し廻つてゐる、男衆の藤さん、彼の人が其時分は市村の事を見て靜岡では驚いたのですが追つかけて來るといふ騒ぎで、斯うして濱邊で追手の大勢に取り圍まれて見ると、もう死なうとした氣が自分にも分らず、人の手前も恥しいので、宿に歸つてゐると餘り熱いので、風に吹かれに來たのだとか何とかあゐあ胡麻化して皆と一緒に宿へ引返し、終列車で市村は濱松へ私は東京へ西と東へ本意ない別れをしましてからは全くの縁市村とは眞實に切れて了ひましたがね▲昔の屋の丶母さんが梅幸さんの電報を見て靜岡へ飛んで來て、役者を廢業めるといふ遺書を見た時には、茫乎として了つて、停車場で手放しで泣いたさうです、が嘸うでせうよ、私は丶母さんの心になつて見るとね、私は罪な事をしたと今でも濟まぬと思つてゐますもの、丶母さんもモウ亡くなられました死目に逢はれなかつたのが實に殘念です▲昔の事を思ひますと、實に夢のやうな氣持がしますね、私がまだ全盛賣出しの時分、馬鹿な事ですが役者買の競爭と云ふやうなものが流行つてましたよ、當時新富町に出てゐたどん子さんなども、盛んにやつたものです、一體の役者は現に角、當時の幸四郎、升藏までに及んだといふ始末でしたが名は云はれませんが、大宮の去る温泉の女將さんなどは、當時四十恰好でしたが月に一度は必ず山月へ來て、市村を聘んだり染五郎、今の高麗藏さんと遊んだりして、盛んなものでしたがね、私も

川上音次郎を貞奴さんと張合つた末静間小次郎

に一時夢中になつた事がありました▲前に話しましたやうに其頃は役者買ひが中々盛んで、桝田屋の女將さんなどは素破らしいものでした、其れで色街々で又競爭が初まる、張合つちやあ御客をせねば土地の面目にかゝると云つたやうに力み返つたのでした私しと貞奴さんとが丁度其れなの。

新公園と名稱

▽太皇帝の命名あらん

南山西麓に韓紳有志により設けられたる新公園は大体に於て規模整ひたるを以て來廿九日の日曜日を卜し盛んなる假開園式を擧行の筈なるが同發起人總代池田長次郎氏は廿四日趙重應氏を訪ひ同公園の名稱に付き太皇帝陛下の御命名あらんと執奏を乞ふ所あり趙農相も快諾し且つ日韓民の親善上頗る益する所あるべしとて贊意を表したりとのことなれば同氏の盡力により新公園の名稱並に三箇所に設けられたる亭の名稱並に開園紀念の上建設せらるべき倶樂部の名稱共同所の歷史に因める名稱を附せらるゝことなるべしと云ふ

兵士泣集配人

△小爲替券を窃取す

龍山櫻井町四十二番戸染谷朝藏(三二)は明治四十一年十二月より四十三年五月迄龍山郵便局集配人奉職中本年三月日不詳自分の配達す可き郵便物中龍山工兵第六聯隊第一中隊江川熊雄宛の封書を開披し在中金二圓の小爲替證書を窃取し郵便物は其の儘破棄し受取人を龍山清水町村山たかと記入し龍山元町郵便所に於て歩兵十三聯隊第十中隊藤井千三郎宛の郵便物在中金二圓の小爲替證書を窃取し受取人を龍山東町五十六番戸村山馬太と記入渡江通り郵便所に於て二月に某に宛たる郵便物より金三圓の小爲替證書を窃取し太平町二丁目村山太熊と記入太平町郵便所より騙取したる事件竝に同局集配人大喜多康重(二三)は四月五日歩兵第十三聯隊第十一中隊塚本彦作宛の郵便物在中金三圓の小爲替證書を窃取し五月一日皆川役造に買物代として交付したる事件は京城地方裁判所に於て審理中の處二十三日染谷は懲役四箇月大喜多は三箇月に處せられたり

酌婦に歸國說諭

▽平民の嫌ひな女の事

囊きに平民客嫌ひと罵して報道したる中の新地れ多嬉亭の酌婦はつは郷里に八十三才の祖母及十五才に五才の弟あり實父は既に五十二才に老龍に子供二人は病床に臥し居り今日の糊口にも窮し居るより今回實父山口縣大津郡三隅村字宗頭田村辰吉(五二)より西部署に說諭願を提出せしより西部署に於てはつを呼出し取調べたるに前借金二百七十圓もあれば到底最近に歸省出來難き旨申立つるより其の旨回答せしに何か爲め如斯借金を作りしか郷里に一厘だに送付せし事無之とて子供の病氣診斷書を添へ再び說諭願提出せしより一昨二十三日該事情取調べしに唯自己の都合とのみ申立て目下にては百五十圓に値切りあるに付支拂濟の上歸省す可く尚は情夫たる柳ヶ瀬吉郎は一應はつの國元に行き話しを付け同人より相當の補助を爲す可き旨申立たる由なるが樓主松永は又踏倒されはせぬかと心配して居る模様なりと

女振り

山本醬油商店内儀　山本いし女

主人の山本富之助君は山梨に水白き山城國京都の丶生れである、親に讓られた財產の丶守をして居れば自然に太つて行くべき大黑柱を大阪堂嶋へ擔ぎ出してボンヤと首尾能く耗り減してステッキ程にした、元來鳥臨でない富之助君此所に於て挽回に手と力とを盡したが悉く失敗に歸した、ステッキ程の財產はペン軸位になつた、其の調子で行くと終ひにはツマ楊枝程に成つて團子も突き刺されない樣に成り相であつた、物窮すれば通ずで此所に於て山本君奮然猛起して渡韓後今の商賣に從事したのが美事に成功した、今日では京城有數の大醬油商として而して最も手堅い家である、富之助君は癇癪持ちで仲々の聞かず屋である、れいしさんは生れは山口縣で今の井門の榮さんの内儀が先夫との間に擧げた娘さんである、れいしさんは二十七か八の女房盛り、富之助君の癇癪持らなのを氣遣ふて何うがなして心を和らげたいと苦心の結果天理教の信者たらしめた已來の富之助君は殆んど別人の如くなつた、勿論れいしさんも大の天理教信者である、雇人の氣受けも好い、れいしさんには確か一人姉さんがあつて夫れは仁川の某氏に嫁がれて居る筈である。

●量見を入れ替ろ　熊本生れの竹本つる(一七)と云ふ小娘は三年前仁川に渡來し元一山樓前古田雜貨店に子守として奉公中持つて生れし泥棒根性を出し店の在金を猪呂魔化せし事實判明し丶れ梯箱となりたるにぞ山手町小谷足袋店に轉じて奉公する事となりしが相も變らず手長の癖は直らず去る十七日同店主婦の死亡して家内混雜するに紛れ現金十七圓及び金指環二本其他衣類點を窃取せしを家人に見付けられ取戻されしもこの事を聞き込み仁川署刑事係は一昨日右つるを本署に同行し嚴しく將來を戒めて放還したる由なるが何うか改心すれば善いが

●傷人犯者の處刑　本月十一日午前一時頃本町七丁目京城座に於て齋藤直義に出刄庖丁を以て斬り付け西小門山り愛媛亭に於て刑事に捕へられたる梶山留三郎(三二)の事件は京城地方裁判所に於て審理中の處二十三日懲役三箇月に處せらる

●女房を賣り飛ばす　仁川宮町三丁目の口入屋日の出屋事伊東垣太郎と云ふは惡漢無頼の徒にして人間の風上にも置けぬ代者なるが三年間連れ添ひし女房を今回群山の某亭酌婦に五十圓の前借にて賣飛ばし代りに淫賣上りの若い女を韓妻に迎へて血に啼く思ひの前の女房を此世からなる地獄の底に突き落せしは人道の敵なりとて非難せざるはなし

●當世韓婦人氣質　西部盤石坊米廛上契涼洞五十三統八戸洪環鎭は妻氣質にて洪姓と云ふあるが仲々の嫉妬燒の丶と狂ひ掛り何處にか妾を置いてあると八ヶ間敷小言を吐き殊に夫が所持金七十八圓を夫が費消し居るとて夫れを常に恩に着せ或る時は不法にも夫を毆打する事も屢々なりとて洪環鎭より離緣說諭願を出し金七十八圓は警官の目前にて支拂ふ可き旨申立たる由なるが困つた嫉妬燒きの韓婦人かな

●轉轍手處分決定　鹿兒島縣人南大門驛轉轍手眞久茂(二九)は四月十六日同驛構内に於て職務上の事より口論を起し同驛員中甚四郎の左腕部を小刀を以て刺傷したる事件は京城地方裁判所に於て懲役五箇月に處せらる

●ボヤ　二十三日午後四時頃西部盤坊谷洞七十統九戸權奭方より出火四時五分鎭火せしが原因は溫突の發火が跳の風に煽られて發火せし者なりしと

●聖書講義と傳道　多年雜誌「聖書之友」の編輯に從事せられ現今日本傳道隊の巡回教師として日本全國を巡回せられたる御牧碩太郎君を聘し相町二丁目メソヂスト教會堂に於て來る二十六日より二十九日まで左の時間に開講せらるゝ由聖書講義午前六時より七時まで傳道說教午後八時より婦人會二十七八兩日午後三時より

●龍山櫻座の落成式

▽優に一千五百名を容る

龍山新市街三角地に去年より劇場を築築中の處此程に至り大概落成せしを以て來月早々落成式を擧行する由なるが櫻座と命名優に千五百名を容るべき大劇場にして右の建物は廣島西遊廓御明座と移したるものにて廣島市の河野廣吉の所有に係り龍山の川田又藏、山根兵助外一名にて萬事の周旋を爲すべくコケラ落しには川上音次郎か然なくば市川右團次の一座を迎へて華々しく興行する計畫なりといふ

●壽座增聘の新顏連

▽中村歌太郎外數名

壽座に開演中の中村歌若、三桝大合澤村竹三郎の一座は歌若等の所作事が呼物となり好評を博しつゝあるが更に今回中村歌太郎外三名を呼び寄せ各優得意の役々に就き藝題を選び最も大車輪に演ずる由

目と耳

▲歌舞伎座　豫定の通り昨晩より開演したる桃川若燕一行の軍事講演會は非常の盛况を呈しつゝありたりと尚同一行は毎夜各一場つゝ讀み切りの上出し物を取替へ講演する由なるが今二日目(二十五日)の番組左の通り　大和曲藝數番(鏡味一丸)秀吉檜試合(太平舍燕樂)筑前琵琶曾我、同左馬之介湖水渡り(源春子)赤穗義士赤垣源藏、御前講談奉天役の秋山中將(桃川若燕)

▲寶座　同座廿五日の代り藝題は「檜山相馬大作の傳」にして尚は同日より若手俳優中村歌太郎外三名差し加へらるべしと

歌舞伎座に乘込みたる　桃川若燕

飯田市十郎(飯若)女房れみさ(正三郎)女房れきの、娘れ君、河內守(內匠之助)國定太吉(二之助)相馬大作(竹三郎)川端勝藏(麗二)百姓傳助、飯田市郎太(九十郎)津輕越中守、伊達三次(大舍)

▲浪花館　若遊三一座廿五日の演物七化狐(若三郎)馬鹿の厄拂(若明)浮世百人一首(圓三)新町遊廓ひやかし(奚三)棒鼠の開業(文齋)喜劇(座員總出)小兒の洋行(若遊三)大切所作事電氣應用

東京相撲新番附の發表

▽二十二日午前五時

東京大相撲五月場所の新番附は廿二日午前五時を以て發表せり内東方新關脇朝汐は朝嵐の西前頭二枚目大蛇潟は代潟の孰れも改名したるものなり

	東方 新	東方 舊	西方 新	西方 舊
張出大關	駒ヶ嶽	駒ヶ嶽	國見山	國見山
横綱	常陸山	常陸山	梅ヶ谷	梅ヶ谷
大關	西の海	西の海	太刀山	太刀山
關脇	朝汐	高見山	伊勢濱	鳳
小結	小常陸	朝嵐	大鳴門	伊勢濱
前頭	碇潟	碇潟	玉椿	玉椿
同	両國	大の海	上州山	鏡岩
同	千年川	大緑	鳳	熊瀬川
同	大湊	小常陸	有明	鶴渡
同	高見山	山泉	緑島	大鳴門
同	綾川	大湊	鶴渡	緑島
同	八嶋山	立川	陣立	梅ヶ花
同	龍ヶ崎	尼ヶ崎	上汐	上汐
同	浪の音	両國	鏡川	有明
同	山泉	小柳	黒瀬川	柏山
同	大緑	千年川	梅の花	柏戸
同	立川	浪の音	柏戸	濱の島
同	尼ヶ崎	八嶋山	柏山	藤嶋
同	小柳	綾川	大蛇潟	土州山
同	近江富士	龍ヶ崎	藤嶋	陣立
同		氷見濱		大崎
前頭	紫雲龍	紫雲龍	平の石	稲瀬川
同	佐賀海	神崎	白梅	近江富士
同	氷見濱	有村	朝日嶽	太刀勇
同	綾川	男嶋	西の山	錦戸
同	岩木山	横の嶋	立汐	能代潟
同	入甲山	平の石	荒角	十三湊
同	雷ヶ浦	小金石	太刀勇	書寫嶽
同	入間川	白梅	男島	沖ノ島
同	日本海	朝日嶽	豊の浦	大戸崎
同	横の島	久米川	神崎	佐賀海
張出前頭	稲瀬川			

▲平民文壇▼

▲此の頃警官の注意で道路に撒水をするのは誠に結構のことで通行者は皆な大喜びである▲處が不整なる韓人間々不都合を働くには驚く▲去日一巡査が南大門の停車塲前を巡廻中一韓人が例のヨーカンと稱する小便壺を捧げ持ちて街路に出でパツと撒いた查公はチラと見た何でう此の不都合を看過すべきすしてヨボは不都合にも今度は濺ぎの急ぎ足にツカくと近づく▲とは知らず水をヨーカンに盛り又しても街路に撒からとする刹那查公はコラツと一喝足を揚げてハツタとヨーカンを蹴つた器は地に落ちた▲が水はパツと查公の顏にも濺ねた誠に以て水迄も不都合を働くかと思へば憎い小僧君何とか制裁の加へやうは有るまいか(氣の毒生)▲只ちやア厭だ(小僧)▲私の御主人の嚴格と謂つたら眞實に窓しくなります其れに引替へ野々村樣の女中は氣樂ですことね昨日も彼の附近に遊びに行きましたら十四日の晩私宅を風ぎように來ました新聞が十六日の三時半頃迄其儘挾んで有るのです私は一日でも此樣な宅に勤めたいと思ひます(官舍の下女)▲オイく嘘を云ふ者ぢやない君が言ふ如く嚴格の主人が午后三時半頃女中を遊びに出しますか君の目的は野々村さんとやらの女中が不檢束だと云ひ度のだらう善くない事だ(小僧)▲人力車帳場○○組の守本某は眞向ひの菓子屋の女房、目を付けて何うか見染められたいと近所の床屋へ這入込んで鏡斗り見て居る柄にないから止せよ(鈍天)▲高等演藝館の韓人樂隊は不埒な餘計な雜曲をする舘主たるもの矯正して可なり(不快生)▲西山牧場の有賀配達人は丁寧親切であるが僕は未だ平山氏には一面識もないが配達人に就て考へて見ても其の人物は知れる(大和町牛乳吞生)▲己と云ふ字には似た字が澤山ある私は學校時代に先生から「巳に上己は下につきながら已はみな離れ」と敎へられたが今日偶ゝ机上便覽を見しに己を(おのれ、つちのと)已を(やむ、すでに)巳を(み)と訓じてある何れを信じて可なりや博識なる小僧君に尋ぬ(はの字)▲南山町三丁目の○○銀行舍宅の樂觀夫人は大國と損りたでゝ人の惡口斗り云ふて御座る御苦勞樣なことだ(米倉町一夫人)

今日の運勢

五月廿五日舊四月十六日九紫先勝庚寅納△一白　轉倒に了り易き日新事旅行金錢見合すべし△二黑　勞して効ある日なり仕官就職相談效見はる△三碧　勢に任せ慾あり諸事手控への事詐術妄言防ぐべし△四綠　概して康寧の日家庭及親族の事煩累係累わり△五黄　誘惑を防ぎ自負を戒しむ旅行相談契約婚姻の事談に適す△六白　新事見合せの事建築土木及金屬に關する事業に吉△七赤　微風し易き日新事及相對的關係効なし盜害慎須△八白　盛運なり依賴相談及建築金屬に關する事業に尤も適す△九紫　非運効無き日新事及鑛山金屬の事不利旅行出帆見合の事(三一館判斷)

●天氣豫報(自廿四日午後六時至廿五日午後六時)

南西風晴少雨後晴

美衛半襟帯締其他紐類各種
京城明治町一丁目
電話一千四百〇九
みのり徳商店

廣告

マッサージ術
僂麻質斯。神經痛。脊髓炎。腰筋骨
一切の術
小生儀内地に於て他年の醫術業に從事致し居り多數の患者を全治せし經驗有之候處今般左記に出張所を設け廣く患者の需に應ず
京城西小門通（三ッ角）
佐世保より出張　井手

提灯新規張替大勉强
並に硝子看板印物調進
京城本町一丁目裏通
藤井提灯店

藝妓置屋開業
芸妓及び料亭其他宴會ある方の御席へも参じますから御贔負に願ひます
いろは順
市市太仲松愛光光
子松郎子吉次子
錦子
錦子

明治町
中屋席
電話一四八一番

三一館
熊心覃志多年爲斯道於湖
精神業習研究在識有得者篤
易断學相談所設專
鑑定顧問商務
京城本町五丁目
易断觀相教授
館主　土御門派大陰陽師

開業御披露
和洋會席御料理
本月十五日より開業
仲居及料理人其他器具類一切神戸より輸入し御待遇親切設備高尚にして頗る美味なる御料理を以て勉强致候間陸續御來遊之程奉希望候敬白
京城旭町三丁目
神戸　富田家支店

足袋
麻裏
和洋酒雜貨
醬油
龍山元町三丁目（電話三二九番）
中谷商店

夏物大賣出し廣告
かや　太物　浴衣地　蒲團地
わた　洋反物　久留米絣
見切反物並につり切類其外いろいろ
賣出期間
五月二十四日より三十一日まで
正價より五分引
行く春の宮は緑にかくれて白妙の衣ほしてふ夏は參り江湖各位をれ〳〵の御支度遊ばされ候に就ては今回新着の新柄珍柄流行品取揃へ此の好機を期し平素の御厚志に酬ゆる爲め前記の大割引を以て貴需に應じ各位の御便利相圖り度微意を念せられ續々御來店之程伏て奉希候 敬具
京城明治町壹丁目
關戸蚊帳株式會社韓國代理店
唐川立造商店
電話二六一番

名し道樂
鯛　松たけめし　一人前三十錢
あなご　竹の子めし　たなしく
鶏　ゑんどうめし　たなしく
兼てたなじみの大阪美人、御光來の程を待ちかねて居りますから、御賞味を賜はりたう、尚ほ多少によらず出前も仕ります、呉々も御用命伏して御願申上げます
大和町三丁目
梅の家眞向ひ
電話七三五番
明月

諸荒物世帯道具一切
其他和洋蠟燭
アサヒ　サッポロ　ビール
精白米
右大勉强仕候に付陸續御用命仰付られ度伏奉願上候
京城本町六丁目
日用雜貨　御問屋
西崎嘉七本店
電話二一〇　電略（ニカ）
仮营業所金口宿舎七番

本店開業拾五ヶ年祝
弊堂開業後爾十五年今日の隆盛は全く各位御愛顧の賜ものに外ならずと深く感謝仕候に就ては此際祝意を表すると共に本業の御愛顧に酬いんが爲め且つ層一層の販路擴張の目的にて
「タバン」懷中時計三千個及び「アンソニヤ」掛置時計三百個を限り四月一日より九月三十日迄本社の命に依り何方樣へも御直段にて販賣することゝ相成候つて各位の御便利を計り左記特約店を設け最寄りの店にて續々御購求の程願上度此段廣告仕候也 敬白
瑞西タバン懷中時計會社韓國代理店
米國ウオルサム時計韓國特約販賣店
米國アンソニヤ掛時計韓國特約販賣店
仁川本町三丁目（電話七〇五番）
時計御商　喜多金光堂本店
京城本町二丁目（電話一〇一五番）
時計御小賣　喜多金光堂支店
京城本町一丁目憲兵分遣所前（電話一三八番）
右特約店　金化堂時計舖
京城本町四丁目角
右特約店　中村時計店
各地方より御注文は發送實費申受候

夏物聯合大賣出

自五月二十四日
至五月三十日

呉服商組合
（いろは順）

㊐林呉服店
電話六百五十二番

㊔山枝呉服店
電話二百二十四番

四山口呉服店
電話八九番

全圓城呉服店
電話百五十七番

㋑恵阪呉服店
電話七百二十六番

㊮末永呉服店
電話六百八十二番

現金ニ限リ聊添物進呈
見切反物寄切種々
（但シ添物ナシ）

東京火災運送海上保險株式會社
明治廿年七月創立
資本金一千萬圓
京城代辦店　本町四　山口呉服店　電話九番
事務所　京城南大門通二　電話一〇六〇番

金魚各種
卸小賣
陸軍御用達
龍山山下町一丁目（兵器支廠官舍入口）
馬木勇吉本店
電話三六四番
茶器商
京城本町五丁目一番戸角
馬木勇吉支店
電話四七一番

各官衙御用
表替調進
明治町壹丁目
新畳屋
牛井勇太郎
電話六七〇番

印章彫刻
ゴム印彫刻
京城本町四丁目
赤帽子號印舖
諸官衙御用達
奥野岩太郎
電話九三番

大　㊅　惠
特約販賣
味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目
自製
支那白菜漬
朝鮮菜葉漬
大賣出し
（電話二五一番）
大上商店

金錢貸借電話讓渡
土地家屋老舖賣買
人事百般其他
周旋業
京城明治町一丁目勸商場前
明治屋

韓官衙御用品調達
營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸染料類
委託販賣
東京ランバーゲ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
東京……合資會社……特約
藤田合名會社
本社　京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所　東京京橋區南鍋町一丁目　京橋新地三十九番